

# ももさと 通信

2025年  
2月15日  
第13号

〈発行〉社会福祉法人桃郷 〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3 TEL 0736-66-8851 FAX 0736-67-8851



すべての子どもに豊かな育ちを

URL <https://www.momosato.com>  
E-mail momosato@galaxy.ocn.ne.jp



## 年末行事「しめ縄作り」を地域の方と一緒に

放課後等デイサービス事業部 小方 和紀

毎年の恒例行事となっている「しめ縄作り」を昨年12月に体験させていただきました。

この行事は、毎年、桃山町地域の方々にお越し頂き、しめ縄作りに使う材料についてのお話や飾り方も教わりながら作っていきます。

最初は、3つの束になつた藁をまずは1束ずつねじり、3束がねじり終えたら編み込むように絞めていきます。この工程では、2人の力を合わせてしっかりと絞めていきます。「できた!」と思ったら、束が緩んだりしてしまい、何度もねじつて編み込んでいく工程を繰り返していき、仕上げ前には地域の方々のお力を頂きながら、しめ縄が完成できました。

しめ縄の飾りとなるのは、御幣（ごへい）・裏白（うらじろ）・橙（だいだい）など。新しい年を迎える新しい年を迎える「めでたい」気持ちを込めながら、しめ縄に飾っていきます。飾り付けの工程は、子どもたちひとりひとりに地域の方からつけ方や飾りの名前を教えてもらひながら飾っていきます。「頑張った!」「難しかった」しめ縄作り。飾り付けも出来て完成した時は、思わずしめ縄を両手で持ち上げて大人たちに見せている姿がありました。

しめ縄作りの最後は、これも恒例となつている豚汁を頂きながらの少休憩時間。冬の作業の後には温かい汁物は特に美味しく感じられます。子どもたちもつい急いで食べようとするのですが、アツアツの食材に対しても「フーフー」しながら食べている様子で、みんなでほっこりできた時間となりました。

しめ縄の完成と温かい豚汁を頂いた後は、公園へ散歩に行き、広場で思いっきり遊び、気持ちも身体も充実した1日を過ごせた様子でした。

近年は完成品を購入したり、時代に合わせて少しアレンジされた物がみられる中ですが、昔からの伝統を自分の手で作つていくという機会を頂き、ものづくりの大変さや完成した時の充実感を味わえる時間をこれからも大切にしていきたいと思います。そして、伝統や風習を伝えていく中で、地域の皆様のお力を頂きながら進めていくことにとっても感謝しています。これからも、子どもたちや職員にとつても素敵な経験ができる場所でありたいと思います。

# 実践報告会を開催

さる11月30日（土）午後1時から、紀の川市きらめきセンター「ピーチホール」において、実践報告会を開催しました。

当口は、役員及び職員を合わせて70名の参加があり、第1部では各事業部より1事業所ずつ計4名が実践報告を行いました。第2部では参加者がグループに分かれて意見交換を行い、その内容を各グループから発表してもらいました。そして最後にまとめとして、竹澤先生からご助言をいただきました。

○助言者 (まとめ)	竹澤大史先生 (和歌山大学教育学部准教授)
○報告者 (まとめ)	澁川里弓（あすなる教室管理者）
○司会	宮井 瞳（ひまわり園保育士）
	高橋真伊（青空つばさ管理者）
	清水千鶴（桃郷障害児者相談支援センター管理者）
	植田京子（ひまわり園園長）



発表者1（澁川先生）

## 自分の好きな世界を広げるつて 大切！！→集団で繰り返しの生活 をくぐつて！

澁川：2歳児を中心に毎日の分離保育

をしている『あすなる教室』。初めて  
の分離の子ども達が多く、最初は泣い  
てしまう子も多いのですが、少しずつ  
安心して登園できるような保育や、保

育士や友だちとの関係性を広げていけ  
る取り組みを心がけています。また、  
保護者との関係づくりも大切にしてい  
ます。

ていつたように感じます。その中で、  
好きなことを見つけ、好きなことを深  
めていたことでAさんが大きく成長  
したように思います。毎日の手遊びや  
リズムを楽しむことで、模倣が出て、  
言葉が出ることにつながつていったよ  
うに感じます。給食のエピソードでは  
は、友達が食べていたものを見て、苦  
手だつたけれども食べてみようと思つ  
たのではないかと思います。また歯磨  
きも嫌だけど、保育士が毎日歯磨きに  
付き合ってことで、本当はしたくな  
いけど、してみようと思えるようにな  
ってきたのだと思います。毎日の積み重  
ねの大切さを実感しました。「今日は、  
口を動かしていたね」「今日、すごく  
目が合つたんよ」「しつかりと、バイ  
バイって言つたよね」など、日々変化  
していく姿を保育士間で共有し、「次  
はこんな姿をして反応を見たい！」  
と新しい関わり方をみんなで想像しワ  
クワクします。そして、Aさんの変化  
を、保護者にも返すことでお家の人の  
気持ちもほぐれ、それがまた子どもの  
元に返つていくということを、この実  
践を振り返ることで再確認できました。

子どものとつても親にとつても初めて  
の集団の場となる事が多いあすなる  
教室。1年でしっかりと力をつけて生  
活の土台を作り、地域園に行くか療育  
継続するかを見極める大切な時間です。  
1年限定の保育の場だからこそ、子ど  
もだけでなく保護者にも丁寧な関わり  
をしていくことが信頼関係につながり  
安心して子どもを任せてくれるようにな  
つていくのだと思います。それと同  
時に保育士もぐつと子どもと関わる事  
ができるのだと思います。子どもはも  
ちろんですが、保護者の人にも安心し  
てもらえる保育を心がけていきたいと  
再度実感しました。

あすなる教室に入園しててくれた  
Aさん。入園当初は、保育士や友だち  
など、周りにほとんど興味のなかつた  
Aさんでしたが、毎日顔を合わせる友だ  
ちや保育士の事がAさんの生活に入つ  
ます。

**親子保育からの学び  
Bさん親子との出会い**

宮井：私が実践報告で発表するBさん



発表者2（宮井先生）

きも嫌だけど、保育士が毎日歯磨きに  
付き合うことで、本当はしたくな  
いけど、してみようと思えるようにな  
ってきたのだと思います。毎日の積み重  
ねの大切さを実感しました。「今日は、  
口を動かしていたね」「今日、すごく  
目が合つたんよ」「しつかりと、バイ  
バイって言つたよね」など、日々変化  
していく姿を保育士間で共有し、「次  
はこんな姿をして反応を見たい！」  
と新しい関わり方をみんなで想像しワ  
クワクします。そして、Aさんの変化  
を、保護者にも返すことでお家の人の  
気持ちもほぐれ、それがまた子どもの  
元に返つていくということを、この実  
践を振り返ることで再確認できました。  
子どものとつても親にとつても初めて  
の集団の場となる事が多いあすなる  
教室。1年でしっかりと力をつけて生  
活の土台を作り、地域園に行くか療育  
継続するかを見極める大切な時間です。  
1年限定の保育の場だからこそ、子ど  
もだけでなく保護者にも丁寧な関わり  
をしていくことが信頼関係につながり  
安心して子どもを任せてくれるようにな  
つていくのだと思います。それと同  
時に保育士もぐつと子どもと関わる事  
ができるのだと思います。子どもはも  
ちろんですが、保護者の人にも安心し  
てもらえる保育を心がけていきたいと  
再度実感しました。

祖母が母をBさんの「母親にしたい」と強く願い、ひまわり園へ入園。今でも時々きょうだいのように見えるBさん親子ですが、母は、Bさんと向き合うことが増え、親子関係が深まりました。その背景にあるのは、毎日の療育や保育、職員の丁寧な関わり、そく感じました。近年、共働きの家庭が多くなり、保護者から求められているニーズも変化しています。親子保育を負担と感じている家庭も多いと思いますが、そんな中でも改めて親子保育を大切にしていきたいと感じました。保育士による保護者向けの学習会で使用する言葉に、「当たり前の生活を少しだけ特別に…」という言葉があります。これからも毎日を大切に、自分自身に出来ることは何かを考え、学び続けていきたいです。

## 僕の居場所になつた ＼信頼するとは／

高橋…本人のやりたい事と周りの仲間の気持ちをすり合わせながら日々の葛藤や自分を認めて欲しい、僕はここにいるという気持ちを上手に言葉にできず仲間の輪から外れたり、一人で出ていってしまったりと言葉にはならない表現に職員がどう向き合い、どう仲間としての意識を持てるように支援するかを実践報告します。

対象児はCさん。祖母からのSOSにより放デイ利用開始となりました。青空つばさに来た初日、ドライブ散歩



発表者3 (高橋先生)

大好きだった母からの無償の愛を求めて、寂しさや悲しみと葛藤していたCさん。母親にはなれないが、彼としつかり寄り添い、良い事も悪い事もすべて受け止め、あなたを守りたい、いつもそばに居るよと一生懸命伝えてきた私たち。思春期だからこそ葛藤。そつとしてほしい、でも心配もしてほしいなどうまく気持ちを言葉で表現できぬ悔しさはあるものの、この人ならと信頼できる人が周りにいることで、どんな場面でも失敗を恐れず、自信の無い事にも挑戦できたと思います。

次のステージでも自分が安心して過ごせる「居場所」を早く見つけ、その場所に早く適応していく事が大事と考えています。居場所は、自宅・職場・地域・心許せる人がいる場所などたくさんの存在という気持ちがCさんに通じ、Cさんは自分の事を見てくればと感じ、その後は何事も無かつたかのように一日を過ごす事ができました。Cさんが発する反抗的な態度は相手に共感を求めるサインだったのではないかと考え、寄り添いながら集団活動での楽しさやルールなど伝えていきたいと思いまし。

## Dさんに笑顔がもどつた! ＼支援ネットができたこと／

清水…2年前から関わりだした、Dさん・Eさん一家。現代の社会問題の縮団のような家族に対する実践を振り返る中で、一事業所ではどうにもできな課題に対し、どのようにアプローチしてきたのか。実践を振り返りたいと思います。

Dさんのケースを担当して約2年。複合的な課題を抱えるケースの支援は、一事業所だけでは絶対不可能と強く実感することになりました。また、このケースが、私が桃郷で仕事をし始めた1年目・2年目に担当することになつて、いた…。これまで受けた

に出かけることになり、車に乗ろうとしないCさんに声掛けすると怒つていう様子で、『俺は歩いて家に帰る』そう言つてCさんに祖母に迎えに来てもらうか、歩いて帰るなら一緒に帰ると伝えたが、一人で帰りたいという主張が強く、歩き出した彼の後ろをついて行く。『ついてくるな!』というCさんを引き留めながら距離をあけ後ろをついて行つた。『俺は事故にあって死んでもいい。先生に関係ないやろ』という言葉に、「私にとつてあなたは大切な存在。ケガの一つもしてほしくない」と一生懸命「大事」「大切」という事を態度や言葉で伝えた。彼は泣きながら突き放そうとしたが、次第に気持ちが落ち着き、最後には自分から『叩いてゴメン』と言つた。私は大切な存在という気持ちがCさんに通じ、Cさんは自分の事を見てくればと感じ、その後は何事も無かつたかのように一日を過ごす事ができました。Cさんが発する反抗的な態度は相手に共感を求めるサインだったのではないかと考え、寄り添いながら集団活動での楽しさやルールなど伝えていきたいと思いまし。

2022年12月、Eさん宅へ転居し、年明けからは支援学校に転校するという怒涛のスピードで、Dさんの新生活がスタートしました。放課後デイなどの障害福祉サービスや訪問看護、行政の方も定期的に訪問する中、生活も安定し、Eさん宅でもうすぐ1年になるかという時のこと、その中心であるEさんの病気が発覚したのです。収入がなくなることや病気のことなど、Eさんの不安軽減に向けて、支援の輪が広がつていきました。目の前の課題に向き合つていく中で、Eさんはケアマネジャーや訪問看護、Dさんは行政や放課後等デイサービス、支援学校、訪問看護など。支援者の輪が変化していました。

Dさんのケースを担当して約2年。複合的な課題を抱えるケースの支援は、一事業所だけでは絶対不可能と強く実感することになりました。また、このケースが、私が桃郷で仕事をし始めた1年目・2年目に担当することになつて、いた…。これまで受けた



発表者4 (清水先生)

学習会や研修で、「ネットワークは大切。顔の見える関係で。困っていることを相談できる関係を等」と何度も耳



## 会場風景

にしてきました。その時は「うん。うん。大切だよね」と、わかつたような気になつていましたが、今回のDさんのケースを通し、「ネットワーク・顔の見える関係は大切です」と心の底から思える機会になりました。

Dさんの暮らすEさん宅は、これからも課題がいっぱい出てくるでしょう。しかし、支援の輪が広がつている中、



司会者（植田園長）

「当たり前の生活を少しだけ特別に：」  
「非常にすばらしいと思いました。  
Cさんの自己理解、思春期、友達との関係性がすごく大事になつてくる。  
家庭環境とか生活環境の変化が原因で  
自信のなさにつながつていて。すごく  
丁寧に関わつてくれています。思いを  
受け止めてくれることで、Cさんが折  
り合いをつけられるようになる。キー  
パーソンの存在、関わつてくれる人が  
1人いると変わつていく。いまは担任  
の先生がキー・パーソンの役割を担つて

次にまとめるになるかわからないですが、発達段階の話をしようと思います。生活年齢は階段状になっています。タテの発達とヨコの発達。階段を上方、ヨコへの発達は量的な変化。いま持っている力を色んな人と色んな場所で充実していくこと。全然変化がなくて心配されたりしますけれども、何の変化もないわけではないと考えてもらえばいいかなと思います。

それから発達の初期の段階ですけれども、自我の芽生え、養育者と距離が近いと言われています。そして少しづつ

それから、Bさん、お母さんは家庭と園との信頼関係を少しずつ築けてい  
る。関係をつくることってすごく大事  
かなと思いました。不快さの表現が回  
避というお話もありましたけれども、  
物凄く大事な力で、Bさんなりに表現  
しているケールダウンの方法です。そ  
れから母の変化、自分をわかつてくれ

Aさん、すごく成長され発達の力つ  
てすごいんだなって改めて聞かせてい  
ただきました。コミュニケーションの  
発達により、指さしとかジエスチャー  
とかの行動につながっていく。友達に  
対する興味とか関心とかがすごく広  
がっています。

くれています。Dさん、ほんとに大変ですね。積極的に関わってくれています。アウトリーチというか、事前のアセスメント。

## 講評・まとめ（竹澤先生）



助言者（竹澤先生）

つ離れていくんです。離れていくと、自分とお母さんとは違うんだとか、お友達とは違うんだと区別ができるようになります。今までとは違う大きな変化が訪れます。

甘えと自己主張。甘えは他者との距離を少し縮めるという行為。一方、自己主張は他者との距離を守ろうとする行為。それが行つたり来たりする。依存と反発を繰り返してゆつくり自分をコントロールできる土台を作つていくといわれていますが、これはすごく時間がかかります。ベースになるのは信頼できる人との関係です。

泣いたりとか怒つたりとか色々な表現がありますが、これは感情を表現しようとしていることなので、そのことを受け止めたうえで背景に何があるかを考えられると、「自分のことを受け止めてくれている」という安心感につながり、自己肯定感が育つていきます。コミュニケーションの発達支援はキヤツチボールが大切です。リンゴの絵を見せてリンゴという言葉を覚えさせてもリンゴを食べたいというところにはつながらない。言葉を言えるとということ、コミュニケーション道具として言葉を使うことは違います。

家族との連携、協働というところで、子どもへの支援のニーズと同様に家族への支援のニーズがあると考えられています。例えば、家族の悩みや不安な気持ちに寄り添うという支援の仕方があるんですけれども、カウンセリングニーズと言われたりします。家族に

とつて何が問題でどういったことを解決したいのかまだわかつてない段階で使います。そして家族の悩みとかがわかつてくると家族と一緒に具体的な取り組みを考える支援を行う。これがコンサルテーションニーズと言われています。家族のニーズは多様化しているので、ソーシャルワークの視点、早期発見・早期療育、そんな中で色々な人とつながっていくことが必要です。家族同士のつながりを支援すること、保護者会とか先輩のお母さんに来てもらって、ピアサポートが大事かなと思います。

### 閉会あいさつ（船木常務）

みなさん今日はご苦労さまでした。長時間こうして検討する時間を設けられたということで、とても充実した一日があつたと思います。先生もお付き合いありがとうございました。まとめに分かりやすく整理したご意見をいただきまして、きっと参考にさせていただくことが多いんじゃないかと思います。

と思います。職員も園児も親御さんたちも、もう一つ付け加えるなら地域も、共に育つていくことがとても大事です。親として、保育集団として、私たちは子どもの育ちと権利の保証という大きな役割を担つてていると思います。本当にこれからも焦らずゆつくりと子どもを見つめながら育つていくという信頼関係を楽しく受け止められる保育・療育の場であつてほしいし、そのことを夢として、私たちは人生を貫きたいと思っています。そしてみなさん、明日からまた子どもに愛をいっぱいあげることにしませんか。よろしくお願ひしたいと思います。



発表者



## 桃郷の理念



- ① すべての子どもたちが平等な権利を享受し、地域社会に参加できることを目指します。
- ② 保護者、家族、地域と共に学びあい、共に育ちあうことを目指します。
- ③ ひとり一人の子どもの発達を理解し、生活を通して豊かな人生を歩む基礎づくりを目指します。
- ④ 地域福祉の担い手として、地域ニーズに応える取り組みを実践します。
- ⑤ 保健、福祉、医療、教育、地域の皆様と手を取り合い、子どもを支える地域づくりを目指します。

今回のちょっとのぞき見は、児童発達支援センターの様子をお伝えします。桃郷の児童発達支援センターは、ひまわり園、つぼみ園、つくしんぼ園の3園です。どの園も、秋に運動会という大きな行事を乗り越え、子ども達のグンと成長した姿を感じています。ますます元気でパワフルになった子どもたちの冬の行事の様子を紹介したいと思います。

## ひまわり園～凧揚げ大会

ち  
ょ  
っ  
と  
の  
ぞ  
き  
見



ひまわり園では、新年最初の親子保育は凧揚げで始まりました。ビニールの凧に子ども達はマジックでお絵描き。ぐるんぐるん気持ちよさそうにペンを走らせます。お気に入りの絵柄が出来上がると、今度は大人の出番。竹ひごを貼り、タコ糸をつけ…。凧はバランスが大事！とあって、作業も丁寧に真剣です。力を合わせて作り上げたオリジナルの凧。今度は力を合わせて空へ上げます。今年はよく風が吹いていて、ぐんぐん凧が揚がっていきます。本当に今年はよく揚がったので、揚がりすぎて糸同士がかしまったり、木に引っかかってしまったりするほど…。そんなトラブルもありましたが、楽しい新年のスタートになりました。

## つぼみ園～クラルテ人形劇鑑賞

年に1度の人形劇鑑賞会を親子保育で開催しました！

今年はひまわり園のお友達と一緒に。かわいい人形たちや楽しい音楽で、あっという間の1時間でした。桃郷が大切にしている“本物に触れる”機会…。子どもたちの真剣なまなざしや満面の笑みから、心の根っこに届いていることを実感し、充実した時間となりました。



受付は5歳児さん♪チケットにスタンプを押してくれました！



いろんな楽器もみせてくれたよ♪



本物の人形劇に…  
みんな興味津々!!



5歳児さんは、お礼の花束も渡したよ✿

## つくしんぼ園～ワクワクウキウキ・クリスマス会



年の瀬も近づいた昨年の12月。つくしんぼ園ではクリスマス会を行いました。星やサンタのオーナメントで飾り付けられ、玄関には大きなモミの木がありクリスマスマードの園舎。いつもよりおしゃれをして登園した子ども達も早くサンタクロースに会いたいと楽しみでいっぱいでした。5歳児のキャンドルサービスから始まり、真剣な表情で火を灯す子ども達に思わずうっとり。手作りのオーナメントをモミの木に飾り、さあそろそろ…。すると、「ドンドンドン」と靴の音と共にサンタクロースが登場。満面の笑みの子、ちょっと緊張気味の子と様々な表情でお出迎えしていました。ゲストにはバイオリン奏者の方をお招きし、心に響く演奏を聴かせてもらい本物体験もできました。ティーパーティーではほっこりした時間を過ごし、最後にはサンタクロースからのプレゼント。ひとりひとり手渡してもらい、子ども達も嬉しさでいっぱいでした。楽しい時間はあっという間、サンタクロースが帰ってしまう寂しさもありましたが、素敵なプレゼントを大切に抱えてとても楽しいクリスマス会になりました。

# 発達講座⑬

## 「まねっこ（模倣）」 発達的に読み解くと？

発達相談員 山本 翔太

子どもたちはある時期から、いらないないいあや、おつむてんなどはじめ、大人が普段している動作（ex.携帯電話の操作など）をまねっこするようになります。さらには、ヒーロー・ヒロインなどのセリフや動作を再現するなど、生活や遊びで様々な「まねっこ」を楽しむようになります。実は、「まねっこ」（真似び）から来ていると言われており、まねっこ（以後、模倣と呼びます）は、人にとって大切な行為として考えられてきました。では、

そのような模倣行為はどのようにして獲得されていくのでしょうか？

生後6、7か月頃から、すでに子どもと大人との間で模倣に似たやりとりが見られ

ます。例えば、離乳食を始めた子どもに、大人が「あーん」と口を開けて見せなが

ら、スプーンで口元まで物を運んで食べさせようとしています。そのような経験の積み重

ねの中で、子どもは自分の口と大人の口が

果たす役割が共通することに気づき始め、ます。大人が口を開けると同じようなふるまいを

大人が口を開けると同じようなふるまいを

大人が口を開けると同じようなふるまいを

大人が口を開けると同じようなふるまいを

大人が口を開けると同じようなふるまいを

前後になると表情を模倣したり、ボールを転がす「受け取る」、食べ物を「食べさせる」食べさせてもらう」といった役割交替

ます。この時に、まだ子どもの中には、「まねっこするぞ！」という明確な意図は

ないかもしれません。それでも、他者とそ

のようないくつかの意図があります。そこで、

「まねっこ」の意図を理解するには、

「まねっこ」の意図を理解するには、

「まねっこ」の意図を理解するには、

「まねっこ」の意図を理解するには、

# 管理者からの施設紹介⑫

## 放課後等デイサービスあすなろつばさ

管理者 松岡 浩司

### ☆施設の概要

沿革：2018年（平成30年）9月開設  
住所：かつらぎ町中飯降1062-1  
定員：20名  
利用者：主に支援学校・支援学級に通う小学校1年生～6年生  
地域：伊都地域  
(かつらぎ町・橋本市・九度山町・高野町)

### 活動時間：

平日 学校終了時～午後5時30分  
土曜日 午前10時～午後3時  
長期休暇 午前10時～午後5時

### ☆目標としていること

- ◎一日学校で学習し、あすなろつばさに到着したらほっとできる二つ目の家の存在でありたいと思います。
- ◎職員も一緒に遊ぶことで、共に学び、共に体験し、信頼関係を深めていきます。小学生だからこそ自分の気持ちを出して、喧嘩もして、でもいつの間にか仲直りをして楽しく遊んでいる…そんなつばさでありたいです。
- ◎しっかりとヘルプを出せたり、自分の得意なことや好きなことが見つけられる環境をつくっていきたいです。
- ◎はじめと終わりにあつまりをし、間に活動を取り入れることで静と動の動きを意識し、メリハリのあるように工夫しています。

### ☆あすなろつばさの1日

- ・各学校へ迎えに行き、全員揃ったらあつまりが始まります。今年は4年生が基本的に毎日リーダーをしてくれて、あつまりの進行をしています。1日の予定や呼名をし、みんなで歌を歌います。
- ・あつまり後はおやつを食べて、設定活動のない日は、ホールや園庭に分かれて遊び始めます。冬だと、園庭で縄跳びやマラソン、おにごっこをしたり、室内で粘土や製作、読書などを楽しんでいます。
- ・活動後は掃除をして、帰りのあつまりになります。楽しかったことの発表など今日の振り返りをし、さようならをしたら各送迎の車に乗り込み、送迎後1日の終了となります。
- ・あすなろつばさの集団・遊び・活動を通して、しっかりと自分の気持ちを出せることで、人とのやりとりや信頼関係、大人になっていくための土台づくりのお手伝いができたらしいなと考えています。